

日商簿記 1 級&全経上級ダウンロード講座 商会 No.20【連結会計 3】

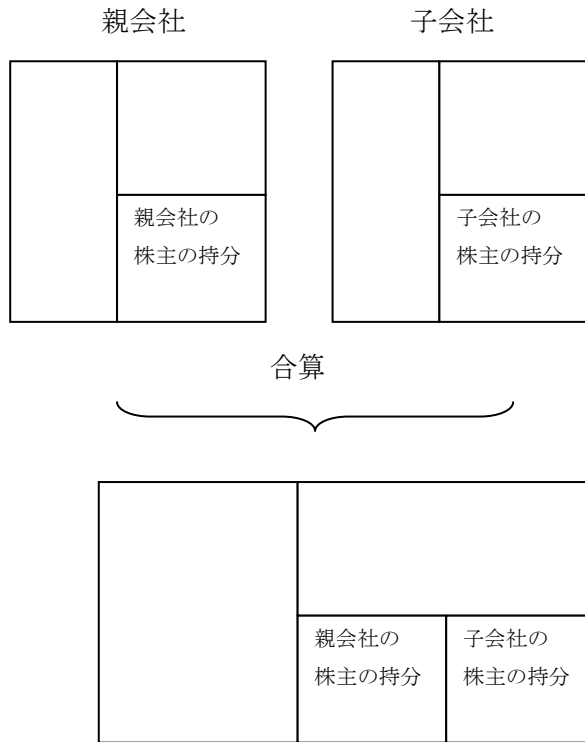
収録日：平成 27 年 9 月 19 日

◎説明あり、例題あり ○説明あり、例題弱い、△説明弱い、例題あり、×説明弱い、例題弱い

	検定簿記講義(商簿)	サク	スッキリ	教科書
ページ数	12	39	30	163
持分法→段階取得	×	◎	◎	◎
包括利益	×	◎	◎	◎
退職給付	×	◎	◎	◎
子会社株式の追加取得	×	◎	◎	◎
子会社株式の売却	×	◎	◎	◎
関連会社株式の売却	×	◎	×	

(「弱い」は「ない」を含みます)

1. 子会社の配当の修正



子会社の利益を全部「親会社の株主の持ち分にする」と「子会社の非支配株主」は怒ります。

従って、子会社の利益（純資産の増加分）のうち、非支配株主の持ち分割合に関しては、連結利益からマイナスします

その仕訳は

非支配株主に帰属する利益 / 非支配株主持分当期変動額（前回説明した分です）・・・①

では逆に、子会社の純資産が減ったら・・・>当然、減った分も負担してもらう必要があります

という事は、「非支配株主持分当期変動額」は逆の動きをします

非支配株主持分当期変動額 / 剰余金の配当
となります

子会社の配当は、非支配株主だけに行われるものではありません。

もちろん、親会社にも行われます。

子会社→親会社への配当は連結グループ内の処理なので、取消が必要ですね。

受取配当金 / 剰余金の配当（内部取引の相殺）

第 134 回の商業簿記（資料 2）の 2 で確認してみましょう

S 社の支払配当金は 400 千円であった（P 社は S 社を 70% 支配している）

受取配当金 280 / 剰余金の配当 400
非支配株主持分当期変動額 120

2. 連結会社間の取引

さきほどの受取配当金は内部取引として相殺消去しました。
他の取引も見ていきましょう。

ここからはタイムテーブルではなく、今の状態をイメージしてTフォームで確認しながら連結修正仕訳を考えよう

[例題]

P社はS社に対する短期貸付金が¥20,000ある。また、これに対する受取利息¥800と未収利息¥200を計上している。連結修正仕訳を示しなさい。

P社

S社

短期貸付金 20,000 / 現金 20,000

現金 20,000 / 短期借入金 20,000

現金 600 / 受取利息 600

支払利息 600 / 現金 600

未収利息 200 / 受取利息 200

支払利息 200 / 未払利息 200

太字下線の部分を相殺消去します。

売掛金と買掛金そして貸倒引当金

P社はS社の発行済株式(S社株式)の80%を所有し支配している。以下の資料にもとづいて、連結修正仕訳を示しなさい。

●資料●

P社はS社に対する売掛金¥6,250がある。

この売掛金には、2%の貸倒引当金が設定されている。なお、前期末におけるS社に対する売掛金にかかる貸倒引当金は¥75である。

P社		→	S社	
売掛金 6,250	貸引 125			買掛金 6,250
	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> { <div style="margin-left: 5px;"> 前 75 当 50 </div> </div>			
連結精算表				
売 掛 金	6,250		貸倒引当金	125
			買 掛 金	6,250

連結修正仕訳

買掛金 6,250 / 売掛金 6,250

貸倒引当金 75 / 利益剰余金当期首 75

貸倒引当金 50 / 貸倒引当金繰入額 50

税効果会計を適用(実効税率 40%)する場合

連結修正仕訳

買掛金 6,250 / 売掛金 6,250

前期分の連結修正仕訳 (税効果 40%の場合)

貸倒引当金 75 / 利益剰余金当期首 75

利益剰余金当期首 30 / 繰延税金負債 30

当期分の連結修正仕訳

貸倒引当金 50 / 貸倒引当金繰入額 50

法人税等調整額 20 / 繰延税金負債 20

手形取引

[例題]

P社はS社の発行済株式(S社株式)の80%を所有し、支配している。以下の資料にもとづいて、連結修正仕訳を示しなさい。

●資料●

1. S社はP社に対する買掛金¥1,500を支払うために、手形を振り出し、P社はこの手形を銀行で割り引いた。
2. 割引料¥100(うち¥40は次期分)を差し引かれ、残額は現金で受け取った。
3. なお、P社はこの手形を割り引いた際、受取手形を直接減額する方法によって処理している。

P社とS社の個別の処理で考えよう

P社		S社	
売掛金	1,500	買掛金	1,500

この状態で、手形決済が行われました

<個別仕訳>

受取手形 1,500 / 売掛金 1,500

買掛金 1,500 / 支払手形 1,500

ここで、P社が手形割引を行いました

<個別仕訳>

現金 1,400 / 受取手形 1,500
手形売却損 100

P社		S社	
現金	1,400	支払手形	1,500
手形売却損	100		

この状態で決算を迎え、連結財務諸表を作成する事になりました。
連結修正仕訳が必要なのですが

支払手形の相殺相手に受取手形がない。どのように仕訳すればいいのでしょうか？

連結グループでは、単に銀行から借りただけ

現金 1,400 / 借入金 1,500
支払利息 100

この状態にする為に連結修正仕訳を行う

支払手形 1,500 / 短期借入金 1,500
支払利息 100 / 手形売却損 100

試験の時は理屈ではなく、
手形割引の場合は左の仕訳をする事を覚えておきましょう

※手形は通常1年以内に決算されますので、問題文に指示がなければ短期借入金を使用します

[例題]

P社はS社の発行済株式(S社株式)の80%を所有し、支配している。以下の資料にもとづいて、連結修正仕訳を示しなさい。

●資料●

1. S社はP社に対する買掛金¥1,500を支払うために、手形を裏書きした。
2. なお、P社はこの手形を裏書きした際、受取手形を直接減額する方法によって処理している。

P社とS社の個別の処理で考えよう

P社		S社	
売掛金 1,500			買掛金 1,500

この状態で、手形決済が行われました

<個別仕訳>

受取手形 1,500 / 売掛金 1,500

買掛金 1,500 / 支払手形 1,500

ここで、P社が手形を裏書譲渡しました

<個別仕訳>

買掛金 1,500 / 受取手形 1,500

P社		S社	
			支払手形 1,500

この状態で決算を迎え、連結財務諸表を作成する事になりました。

連結修正仕訳が必要なのですが

支払手形の相殺相手に受取手形がない。どのように仕訳すればいいのでしょうか？

連結グループでは、S社からP社をスルーして外部の仕入先に渡っただけ

従って、個別上の支払手形をなくして、連結上の支払手形に変更する必要があります

この状態にする為に連結修正仕訳を行う

支払手形 1,000 / 支払手形 1,000
(個別) (連結)

同じく試験の時は理屈ではなく、裏書きの場合は「仕訳なし」と覚えておきましょう

なので、連結上は仕訳なしになります

【例題】

P社はS社の発行済株式(S社株式)の80%を所有し、支配している。以下の資料にもとづいて、連結修正仕訳を示しなさい。

●資料●

1. S社はP社に対する買掛金¥1,500を支払うために、手形を発行した。
2. なお、P社はこの手形を裏書した際、受取手形を直接減額する方法によって処理している。

P社とS社の個別の処理で考えよう

P社	S社
売掛金 1,500	買掛金 1,500

この状態で、手形決済が行われました

<個別仕訳>

受取手形 1,500 / 売掛金 1,500

買掛金 1,500 / 支払手形 1,500

ここで、P社が手形を裏書譲渡しました

<個別仕訳>

買掛金 1,500 / 受取手形 1,500

P社	S社
	支払手形 1,500

この状態で決算を迎え、連結財務諸表を作成する事になりました。
連結修正仕訳が必要なのですが

支払手形の相殺相手に受取手形がない。どのように仕訳すればいいのでしょうか？

連結グループでは、S社からP社をスルーして外部の仕入先に渡っただけ
従って、個別上の支払手形をなくして、連結上の支払手形に変更する必要があります

この状態にする為に連結修正仕訳を行う

支払手形 1,500 / 支払手形 1,500
(個別) (連結)

同じく試験の時は理屈ではなく、裏書きの場合は「仕訳なし」と覚えておきましょう

なので、連結上は仕訳なしになります